

フィルムになった風景

vol.1

ラストを飾る決闘シーンが撮影された

「馬見ヶ崎川」

アメリカ・サンフランシスコの設定で使われた

「文翔館」



馬見ヶ崎川では決闘シーンを撮影

山形市

映画『小川の^{ほとり}辺』は藤沢周平の原作で、2011年に劇場公開されました。メガホンを取ったのは、同じ藤沢周平の原作『山桜』でもメガホンを取った篠原哲雄監督です。

主人公は「海坂藩」の藩士・^{うなさか}戊井^{いぬい}朔之助^{さくすけ}。戊井が受けた藩命は、^{さくまもりえ}佐久間森衛を討つこと。だが、佐久間は戊井の親友であり、かつ自身の妹・田鶴の夫でもある。佐久間と田鶴の隠れ家は、兄妹が幼い頃に遊んだ小川の辺にあった。果たして、戊井は佐久間を討つことができるのか——『小川の辺』は義と情の狭間で揺れ動きながらも、背すじを伸ばして運命を受け入れようとする人間たちの「想い」の物語です。この物語のラストを飾る戊井と佐久間の決闘シーンの撮影は、山形市内を流れる^{まみ}馬見ヶ崎川で行われました。

篠原哲雄監督から与えられた撮影場所のお題は「近くに山が見えないこと」

「川幅が6～7mでゆったり流れていること」「岸辺に隠れ家を建てるスペースがあること」「人工物が見えないこと」「雰囲気のある空間であること」など。

盆地である山形市にとって、このお題は厳しく、何度もリサーチと提案を繰り返しましたが、最も大事なシーンとなるだけに、なかなかOKは出ませんでした（原作では千葉県の実地にある川とされているため、スタッフも関東地方を中心に探していたものの、見つけれなかったそうです）。それでも、何とか市内で見つけようと最後まであきらめずにリサー



「文翔館」は海外の設定で使われることもしばしば

チし、提案し続けた結果、全てのお題をクリアする場所が見つかり、クランクインの2週間前に無事、撮影場所として選ばれました。

馬見ヶ崎川の撮影場所は、中心市街地から車で10分ほどの距離にもかかわらず、360度見回して人工物が映りません。加えて、その清らかな流れや美しさから“まさに追い求めていた「小川の辺」である”と、監督をはじめスタッフの皆さんからも高く評価されました。

銀幕に映る馬見ヶ崎川は、本当に美しく、ラストシーンでもあることから、劇場公開後、市内でも大変な盛り上がりを見せました。映画の公開に合わせ、ロケセットを復元したところ、3カ月間で約1万人の方が訪れ、この「小川の辺」を楽しんでいただきました。映画『小川の辺』の撮影場所に選ばれたことは、市民の方にとっても、地域の魅力や誇りを

を再認識する良い機会になったのではないかと思います。

その他、山形市内では、ドラマ『99年の愛～JAPANESE AMERICANS』の撮影も行われました。撮影場所は国の重要文化財でもある「文翔館」。1946年7月のアメリカ・サンフランシスコという設定で、大勢の群衆が見つめる中、日系人の戦勝記念のパレードが行われるというシーンの撮影でした。ちなみに、文翔館はイギリス・ルネサンス様式の建築物であるため、海外という設定でよく撮影が行われます。

撮影協力にあたっては、短期間でのエキストラ集めやギャラリー対策などかなり大変でしたが、文翔館に500人ものエキストラが集まった光景は圧巻でした。

『小川の辺』と『99年の愛～JAPANESE AMERICANS』で山形に興味を持たれた方は、ぜひ一度、お越しください。

（執筆／山形フィルム・コミッション事務局員 山川渉）

◆映画『小川の辺』 2011年7月公開

監督：篠原哲雄

出演：東山紀之、片岡愛之助、菊地凜子

◆ドラマ『99年の愛～JAPANESE AMERICAN』

TBSテレビ 2010年11月放送

脚本：橋田壽賀子 出演：草薅剛、仲間由紀恵、松山ケンイチ